

高齢者スマホ教室を自治会で実施せよ



浦崎 みゆき 議員

答 自治会からの申込みで
開催を検討する



問 本町の65歳から70歳、また70歳から75歳の人口を問う。
住環境課長 令和4年度65歳から70歳は2781名。71歳から75歳は1611名である。

問 スマホ教室を行う目的は何か。

企画財政課長 自治体DXを推進する上で、高齢者などのデジタル活用の不安解消に向け、大変重要だと認識している。そのため支援策で取り組んでいる。

問 スマホは持っているが、なかなか活用ができない現状がある。身近にある自治会公民館では非、開催していただきたい。南風原町から発する公式ラインや台風情報や避難情報を受け取ることで、防災や安心感につながる。今後どのようにしていくか。

生涯学習文化課長 出前講座の一環として自治会の申込みで開催できればと考えている。



スマホ教室の様子

生理の貧困への継続的な支援を

問 生理用品に対する本町の取り組みを伺う。

こども課長 児童や女性の相談対応において、生理の貧困を念頭に、引き続き悩みを抱える女性に寄り添った支援を継続していく。

問 女子トイレに生理用品が当たり前にある生活環境の整備は必要だと考える。継続的に生理用ナプキンを無料提供

するシステムを本町の公共施設へ導入できないか。
こども課長 全ての女性が健康的に安心して生活できるような様々な配慮がされることは重要であると考えており、しっかり施設の状況を踏まえて検討していきたい。

選挙の投票がしやすい環境を

問 直近の投票率を伺う。

副町長 令和4年度は、参議院51・9%、町議会59・1%、県知事61・4%となっている。

問 高齢者や障がい者などが投票する際に手助けとなる「投票支援カード」は、イラストや文字を指さし等で困っていることを伝える「コミュニケーションボード」である。本町に導入し投票がしやすい環境に出来ないか。

総務課長 先行自治体の事例を参考にして、本町での導入も考えていきたい。